

| 項目 | 内容 |
|-------------------------------------|--|
| 名称 | ヒュウガトウキ、日本山人参 [英]- [学名]Angelica furcijuga |
| 概要 | ヒュウガトウキは、宮崎県から大分県に自生するセリ科の多年草。 日本では、根が医薬品として使用される成分本質に該当するため、根を食品に使用することはできない。健康食品としては、葉抽出物が使用される。 |
| 法規・制度 | ■ 食薬区分 ・ 根：「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」に該当する。 |
| 成分の特性・品質 | |
| 主な成分・性質 | ・ Hyuganin (A、B、C、D)、クマリン類、アセチレン、アノマリンなどを含む (PMID:9873511) (PMID:11045445)。 |
| 分析法 | ・ ヒュウガトウキの成分をHPLCによって分析したという報告がある (PMID:9873511) (PMID:11045445) (PMID:15516772) (1999199438)。 |
| 有効性 | |
| ヒ 循環器・ ト 呼吸器 で の 評 価 | RCT：国内 【機能性表示食品】健康な男女36名（試験群16名、平均45.9±6.9歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ヒュウガトウキ葉抽出物1,440 mg (YN-1 8.0 mg+イソプテリキシン1.4 mg含有) /日を12週間摂取させたところ、収縮期血圧、拡張期血圧に影響は認められなかった (2019268978)。 |

| | |
|--------------|---|
| 消化系・肝臓 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 糖尿病・ 内分泌 | RCT：国内 【機能性表示食品】健康な男女18名（平均45.3±8.1歳、日本）を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、ヒュウガトウキ葉抽出物 1,440 mg (YN-1 8.0 mg+イソプテリキシン1.4 mg含有) /日を単回摂取させたところ、糖代謝マーカー（OGTT 30分後血糖、90分後までのAUC）上昇抑制が認められた（2019268979）。 |
| 生殖・泌尿器 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 脳・神経・ 感覚器 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 免疫・がん・ 炎症 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 骨・筋肉 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 発育・成長 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 肥満 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| その他 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 参考文献 | <p>(PMID:11045445) Chem Pharm Bull (Tokyo).2000 Oct;48(10):1429-35. (PMID:9873511) Bioorg Med Chem Lett. 1998 Aug 18;8(16):2191-6. (PMID:15516772) Chem Pharm Bull (Tokyo). 2004 Nov;52(11):1387-90. (1999199438) 和漢医薬学雑誌. 1998;15(5):300-1. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (2016047376) 日本消化器病学会雑誌. 2015;112(臨増大会):A865. (2019268978) 診療と新薬. 2018;55(12):936-44. (2019268979) 診療と新薬. 2018;55(12):945-8. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)</p> |